

第32回協会賞 贈賞式

真木

第 186 号

〒261-0004
千葉市美浜区高洲
1-14-9-503
田所節子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-277-1056

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254

目 次

第32回協会賞贈賞式	1
平成三十年度通常総会開催・新緑交流会	2
第32回協会賞受賞者のことば	5
千葉県俳壇ニュース	6
結社賞、ひろば、会員著書紹介、受贈誌より	8
第4回千葉県俳句大賞、第33回協会賞の作品募集	9
第60回千葉県俳句大会作品募集、夏季吟行会のご案内	10
新入会員一句、基金御礼、事務局日誌	11

五月六日、千葉市のホテルプラザ菜の花に於いて、千葉県俳句作家協会の総会に先立ち第三十二回協会賞の贈賞式が行われました。

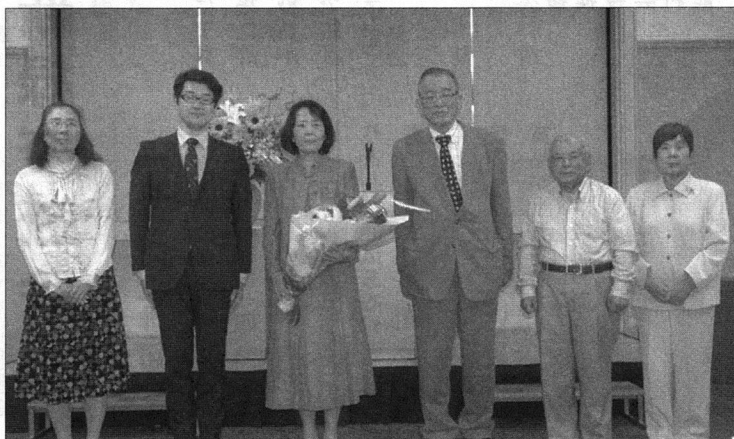
協会賞は茶谷静子、次席は稗田寿明・林ゆみ、佳作は藤井元基・安部由美子の諸氏が受賞されました。（詳細は「真木」一八五号参照）

能村会長より、協会賞には賞金、賞状が、次席のお二人には賞金と賞状、佳作のお二人には図書券が贈られ、協会賞の茶谷氏には、賞金賞状の他に、花束が担当の谷元理事より贈られました。

協会賞が出来たのは昭和六十一年であり今年で三十二回となりました。新人賞も第一回より協会賞に並び作られていましたが、平成二十八年に新人賞はなくなり、協会賞が現在に続いています。

協会賞は、日頃それぞれの方が学び切磋琢磨の結果を問うという大切な機会であると思います。今回は二十八名の応募がありました。顕彰担当の増成栗人副会長より「入賞を逃した人達も次回へ向けてまた頑張つてほしい。なお今回参加されなかった方々も、良い勉強の場として、この賞に挑戦してほしい」と、熱い激励と誘いの言葉が有りました。

（石橋みちこ記）



受賞者記念撮影

左より
林 ゆみ（次席）・稗田寿明（次席）・茶谷静子（協会賞）
能村会長・藤井元基（佳作）・安部由美子（佳作）の諸氏

平成三十年度 通常総会開催・新緑交流会

【通常総会開催】

平成三十年度の通常総会が、五月六日(日)午後一時より、千葉市「ホテルプラザ菜の花」において開催された。出席者六十五名、委任状二〇九名、合計二七四名(会員数三九八名)で、秋尾理事長の総会成立宣言を経て議事が行われた。

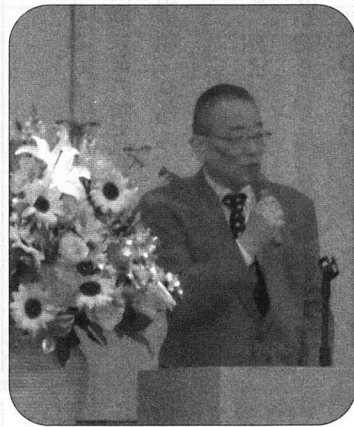
塩野谷副会長の通常総会開会の辞に続いて、能村会長より、「会員を増やす積極的な働きかけや、南房総・鴨川市・銚子市等県下全般から千葉県俳句作家協会俳句大会等に、多くの方の参加をお願いしたい。千葉県の俳句人口は全国で三番目に多く、これからも元気な千葉県を発信していきたい。」との挨拶があった。

恒例により会長が議長席に着き、直ちに議事に入った。平成二十九年度の事業報告が田所事務局長より、同収入支出決算報告が中村事務局会計担当より行われた。引き続き会計監査報告が染谷監事よりあり、異議なしで承認された。

次に、千葉県俳句作家協会の逼迫している財政立て直しのため、平成三十一年度から年会費を三千円に、また今後広く「基金」を募っていききたいこと、「真木」の広告掲載の継続等、能村会長からお願いの方を立て直し策の提案があった。

続いて、平成三十年度の事業計画案並びに予算案が提示され、異議なしと承認された。最後に辞任・退任の役員異動に伴う平成三十年度の役員が報告され、総会は、三枝副会長の閉会の辞で終了した。

(加藤峰子記)



能村会長挨拶



事業報告の田所事務局長

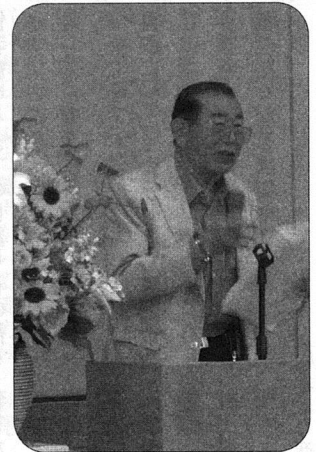
【新緑交流俳句会】

通常総会の後、「新緑交流俳句会」が開催された。出句総数は一四六句。増成副会長の開会の辞、秋尾理事長の司会で進められた。披露は加藤、荒木(洋)、村上各理事が担当し、大きな声の名乗りと共に活気ある句会となった。能村会長の五句選について、「季語の斡旋が良い、中七が句全体をレベルアップしている。」等の講評があり、今後の句づくりが大いに参考になった。最後に賞状・賞品が十五名の方々に授与された。

(加藤峰子記)



俳句会第一位の原瞳子氏



講評の三枝青雲新顧問

俳句会作品集

特選句

能村研三会長特選

結び目を解けばたちまち風五月

細根 栞

三枝かずを副会長特選

春愁やゴリラ拳を胸に抱き

袴田 菊子

増成栗人副会長特選

蝶の昼耳から眠くなりにつけり

谷本 元子

塩野谷仁副会長特選

春愁やゴリラ拳を胸に抱き

袴田 菊子

秋尾敏理事長特選

失いしもの万緑へ描き上ぐ

荒木 洋子

川合憲子副理事長特選

更けし夜の風音に春惜しみけり

田所 節子

田所節子事務局長特選

かげろふをひとゆすりして出航す

原 瞳子

三枝青雲顧問特選

白内障術後の朝の若葉光

久礼 隆志

互選結果

入賞者と代表作品

(二句合計得点、○数字は順位、一句のみ記す)

① かげろふをひとゆすりして出航す 15点(特5)

② 蝶の昼耳から眠くなりにつけり 13点(特1)

③ 結び目を解けばたちまち風五月 13点(特1)

④ 索引は別巻にあり穀雨の夜 10点

⑤ 恋猫の知り尽したる神楽坂 10点

⑥ 逆風を力に変へて鯉のぼり 9点

⑦ 春眠のなかを大きな象あゆむ 8点

⑧ 人麻呂も虫麻呂もいて花の闇 7点

⑨ 鬱の字のほどけぬままに青き踏む 7点

⑩ たんぼぼの笑ふ光の中にある 7点

⑪ 木々の息わが息春の深きかな 6点

⑫ 春愁や朱線古りたるコンサイス 6点

⑬ 少年の名入りの単箱古びけり 6点

⑭ 春愁やゴリラ拳を胸に抱き 5点(特2)

⑮ ふるさとは海より暮れる祭笛 5点

以下得点省略(各一句のみ掲載)

いささかの気概をこめて更衣 伊藤 隆

弥次郎兵衛つつきて遅き日でありぬ 増成 栗人

木曾のなあ木曾の御嶽春惜しむ 藤井 元基

午後は怠し水平線をひく揚羽 小林 実

マネキンのくの字に抱かる立夏かな 加藤 峰子

春キャベツきゅうと癒しの音がする 佐々木幸子

風の音の室戸を脱けて鳥帰る 三枝 青雲

新緑の少女に香りありしこと 歌代 美遥

一刷けの眼の優しさよ古雛 小野 正之

行き摺りに櫟雄花を教へらる 中山 和子

膝抱くは振り返ること花は葉に 黒澤 雅代

渦巻き立ちあぐ護摩火涅槃西風 郡 香織

臘夜の触りて和紙の裏表 中村 世都

格子戸に「廁あります」黄水仙 安部由美子

柏餅よいしよの声に腰の浮く 羽矢 真人

八月の捲りて重し我が記憶 保坂 和郷

夕焼けて潮が満ちくる穴子釣り 深田 雅敏

たつぷりと句読点なき春の昼 屋間たつお

車座はおほよそ歪さくら散る 高橋 健文

長椅子は春愁かくすためにある 林 ゆみ

春めきて静かに森のふくらめり 寫田二三夫

雲連れてゆく花冷の人力車 望月 百代

草餅やどれもまんべんなくみどり 三枝かずを

おしめりの真正面から燕来る 秋尾 敏

花は葉に指いらついでいる会議 石井紀美子

垣根越し手招きのお茶日の永し 高山 喜佐

今年また花の洗礼命延ぶ 西本 幸

大方は略して生きる花は葉に
 三箇所に訂正印を八重桜
 さくらさくら花びらになる子どもたち
 みじか夜や浮灯台は揺れやまず
 楢田球央に叫びて卒業す
 フクシマに罪なき桜遅れ咲く
 鉄線花頑丈そうで弱い君
 胞子出づ若布の気泡光りけり
 抜き棄てにされてありけり葱坊主
 蛇出づるテロの幻影身にまとひ
 小数点以下まだ続き飛花落花
 春ともし旅行帰りの荷をひろげ
 爪切りは左の手から遅日かな
 三日程桜が主役文学館
 月日貝海へ地層のなだれたる
 どの家にも土橋のかかる柿若葉
 一匹は仲間はずれの目高かな
 すみれ咲く御魂ら若き戦没苑
 欧風のカフエや一村光る
 春暖炉コヒーの香を濃くしたり
 怪我癒ゆるまでの日数や春の行く
 道具屋の煙管の艶や春惜しむ
 菜の花の崖下りきつてチバニアン
 銀行に卵預けまず遅桜
 喜寿にしてプールスクール身硬張る
 花は葉に貸ポト屋の大あくび
 春霞寄木細工の秘密箱
 覗きたくなる黒塀や暮の春

北川 昭久
 平岡 育也
 磯部 洋子
 栗坪 和子
 古谷 誠司
 金子まもる
 倉岡 けい
 服部 直道
 前北かおる
 藤岡 貞夫
 稗田 寿明
 楠原 幹子
 宇根 幸子
 野口 京子
 滝口 滋子
 須藤 義紀
 川俣婦美子
 荒木 甫
 鈴木 秀子
 大久保文夫
 菅谷たけし
 岡本 秀子
 横山 民子
 高木 一恵
 高橋美智子
 飯田 協子
 村上喜代子
 松本よし彦

(松本よし彦記)

新緑交流懇親会

新緑交流俳句会後、会場を四階「楨」に移し、川合憲子副理事長の司会進行で、懇親会に入った。はじめに能村会長より「千葉県は九十歳でも現役俳人が沢山いる元気な県である。俳句大会にもどんどん投句してほしい。本日の懇親会は積極的交流してください。」との挨拶があった。次に顧問に就任された三枝青雲さんの乾杯の音頭に続き、受賞者の挨拶があった。

協会賞の茶谷静子さんは、「今回のテーマである『白木槿』は、出会いと別れをテーマにまとめた。俳句の世界にお誘いいただき、感謝している。」と挨拶。次席の稗田寿明さんは、「受賞を足がかりになお一層頑張りたい。」との決意。同じく次席の林ゆみさんは、「受賞は、十五年間の俳句の醍醐味を感じさせてくれた。」と振り返る。佳作の



協会賞受賞の
 茶谷 静子氏
 謝辞



三枝顧問、三枝・塩野谷・増成各副会長



懇親会風景

藤井元基さんは、「傘寿となった。人生の哀歓・人間の賛歌をベースに今後も作句していきたい。」との志。最後に佳作の安部由美子さんは、「今回の受賞は一生の思い出になった。」と感謝。
 増成副会長からは、「茶谷さんの句は、難なく作られており、全体的に明るく夢を感じさせてくれた。稗田さんの句は、作者の感覚を基に作られており、新鮮さが感じられた。林さんの句は、作家の個性である観念的なところもあるが、新しい世界が構築されている。」との祝辞が披露された。
 余興の部では、増成副会長の柳亭痴楽「山手線」の小咄が庄巻であった。盛大な拍手の中、塩野谷副会長の中締めでお開きとなった。

(加藤峰子記・撮影一頁／細根 栞)

第32回協会賞

受賞者のことば

協会賞 茶谷静子

この度は協会賞という身に余る賞をいただきありがとうございます。審査に当たって下さいました先生方に心から感謝申し上げます。

協会賞の重みをしっかりと受け止め、この賞に恥じないようこれからも俳句の道に精進していきたいと思います。

応募作品「白木槿」は私の拙い人生の中での出会いと別れをテーマにその時その時の思いをやさしい言葉でまとめました。

これまでいろいろな出会いがありました。高の出会いにはまさにこの俳句との出会いです。

八年前に遠距離介護をしていた両親を相次いで亡くし、呆然と過ごしておりましたある日、近くの図書館で一枚の紙に出会いました。それは「柏市文化祭俳句大会作品募集」の案内でした。

俳句の「は」の字も知らぬまま「言葉が好き」というだけで思い切つて応募しましたが、無所属の投句だったことから藤岡貞夫理事（現柏市俳句連盟会長）に親切にお声をかけていただきました。

地元の「柏葉句会」、その後、東京に本部のある結社「かまつか」に誘っていただき、すっかり

俳句の虜になりました。「柏葉句会」も「かまつか」も七十年余の歴史ある句会で、句会の皆様には本当に温かく辛抱強く今日まで導いていただきました。俳句の面白さと奥の深さに心打たれながら、どんどん俳句が好きになっていきました。

「俳句道即人間道」という「かまつか」の理念に寄り添いながら「俳句は詩」であることを心にとどめてこれからも俳句を楽しんでいきたいと思っています。ありがとうございます。

協会賞次席 稗田寿明

第三十二回協会賞の次席を賜り、ありがとうございます。選考委員の方々をはじめ、日頃よりご指導いただきありがとうございます。「沖」主宰の能村研三先生に御礼申し上げます。

能村研三先生が句集『鷹の木』のあとがきで書かれた「現実にもつと対峙した、消すことの出来ない自分臭さの俳句であるべき」との言葉を、私は句作のテーマに掲げています。

初空ヘルネッサンスの志 研三 雁渡る旗手の掲ぐる志 寿明

能村研三先生の掲げる「ルネッサンス沖」という理念に対し、自分なりに応えた二十句でした。次席ということは、まだまだ伸び代があるというところ。これを足掛かりとして、引き続き挑戦してまいります。

地方公務員という仕事をしながら俳句を続ける

ことができるのは、職場の理解があつてのこと。そして、私が俳句に夢中であることに、あきれているのか、諦めているのかわかりませんが、応援してくれる家族のおかげです。本当に、ありがとうございます。

協会賞次席 林 ゆみ

この度は思いがけず、第三十二回協会賞次席を頂き光栄に存じます。又、選考委員の諸先生方には深く感謝申し上げます。

「握手」で俳句を始め、平成二十五年より「遊牧」でお世話になっていきます。俳句における「意外性」とは独りよがりな突飛な事ではないと常々言われている所です。

今回の受賞は、対象と自分との新しい関係を追及し表現せよと言う、諸先生方のあたたかい励ましとして頂きました。

表題作の「信書」の下五の「信書かな」は最初「手紙」でした。今ひとつしっくりせず、「伝言」「ことづつて」「書簡」「親書」…。「信書」の言葉に巡り合い、自分の中でびたつと決まった時の喜びと満足感はい言えず、正にこれが俳句の醍醐味です。この醍醐味を味わいたくて、私は俳句を続けているのかも知れません。

この受賞を励みにこれからも真摯に俳句と向き合い精進して参りますので、よろしく御指導お願い致します。有難うございました。

千葉県俳壇ニユース

千葉県現代俳句協会総会・俳句大会開催

平成三十年三月十八日(日)、千葉市文化センターに於いて、平成三十年度の千葉県現代俳句協会総会が開催された。総合同会並木幹事長、議長に椎名鳳人氏を選出。総会参加者七十一名。

来賓に東京都区栗原節子副幹事長、東京都多摩地区永井潮幹事長、神奈川県尾崎竹詩事務局長の三名の方々をお迎えした。

午後から参加者八十二名にて俳句大会を開催。

【事前投句の部】

- ・千葉県知事賞 加藤 法子
- ・千葉県現代俳句協会賞 高橋 健文
- ・千葉市長賞 青木 一夫

- 煮凝りに入れておきたい昭和かな 浦野 五郎
- ・毎日新聞社賞 加藤 法子
- コスモスや無風のときに息をする 加藤 法子

【席題の部】 席題「凧」

- ・千葉県現代俳句協会会長賞 加藤 法子
- ・千葉県教育委員会教育長賞 長濱 聰子
- ・千葉日報社賞 森村 文子
- 奴凧野つ原がある海がある 森村 文子

〈会長・来賓特選句〉

(秋尾 敏特選)

三つ目の凧あげしまま居なくなる 楠見 恵子

(栗原節子特選)

暮るるまで鳥の声してあたたかし 鈴木まんぼう

(永井 潮特選)

いかのぼり引きちぎらるる生家見き 吉岡 一三

(尾崎竹詩特選)

つくづくしこんなにたぐさん子供の声 森村 文子

(現代俳句千葉二一九号より)

秋尾敏著『俳句の底力』

第五回俳句四季特別賞受賞

秋尾敏主宰「軸」の創立五十周年を記念して行われた『俳句の底力』(真木二八三号紹介)が、第五回俳句四季特別賞を受賞された。慶祝

この賞は平成二十九年一月一日〜十二月三十一日、東京四季出版社より刊行の書籍より選考。

七月八日東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷・私学会館にて贈呈式が執り行われる。(編集部記)

俳句同人誌「ペガサス」創刊

本年四月十五日、羽村美和子氏を代表に創刊同人八名にて、「ペガサス」が創刊された。慶祝

本誌は、代表の創刊の言葉、同人作品とエッセイのほか、テーマに添った文章を六名が執筆し、好スタートとなった。表紙絵を樋口博徳氏。当協会会員の徳吉洋二郎氏が編集委員にて活躍。今後のご発展をお祈り申し上げます。

(「ペガサス」創刊号より)

俳人協会千葉県支部 平成三十年度 総会・俳句大会並びに懇親会開催

俳人協会千葉県支部は四月二十九日、昭和の日に平成三十年度総会・俳句大会並びに懇親会をホテルプラザ菜の花、三階で開催。本部より俳人協会評議員・「雲取」主宰の鈴木太郎先生をお迎えし、会員一〇名が参集。活気溢れる大会となった。総合同会には佐藤麻績氏により進行。顧問の能村研三氏の開会の辞、増成栗人支部長挨拶、鈴木先生のご祝辞のあと議事に入り、大野崇文氏が幹事長に、新たに二名の新役員の紹介。事務局次長伊藤素広担当の会報「若潮」第二号も一〇頁に。

続いての俳句大会の司会は谷口麻耶氏。鈴木太郎先生の講演は「能村登四郎・森澄雄を(花鳥風月)から読む」と題して「山・道・神・風・鳥・花・仏・時・夢・月」の十章から二人の句を考察し、新鮮な内容であった。また俳句大会の表彰は、九六六句の応募句から三十九名の選者による選で顧問の九十歳の小倉英男氏の力強い選評が印象的。

入賞者一覧

- 第一位・俳人協会千葉県支部長賞 (8点・特2) 薄氷や書かねば消えてゆく言葉 木村 美翠
- 第二位・若潮賞 (7点・特2) いくたびも笑ひなほして初写真 西岡三四郎
- 第三位・菜の花賞 (7点) ライオンに檻の影ある寒さかな 原 瞳子
- 優秀賞 (6点・特3) 秋澄むや妙義の山のがぎくげこ 岩下三香子
- (6点・特1) 鰯跳ねて利根悠々と海を押す 最上 峻

瀬祭はちきれさうな稲荷すし

中津留正子 (6点)

卒寿とていつもの暮し初日記

柴田 歌子

秀逸賞

序と跋を拾ひ読みする曝書かな

松澤 美鈴 (5点)

あんばんを二つに分ける春炬燵

酒井やすじ

獣除けの柵の中にて耕せる

市原 久義

鈴木太郎先生特選

レース鳩寒九の空へ放ちけり

古岡美恵子

臘梅や髪直しあふ巫女溜り

近藤 弘子 (川合憲子記)

千葉県現代俳句協会・春の吟行会

「千葉市動物公園」に遊ぶ

千葉県現代俳句協会は、平成三十年四月二十九日(祝日)、春の吟行会を参加者五十五名を得て実施。千葉市動物公園を吟行後、千葉市生涯学習センターにて句会を行い盛会裡に終了した。

〔上位入賞者作品〕(二句のうち一句)

- ① 時々人になる春愁のゴリラ 岡田 春人
- ② 昭和の日は鉄鎖を引き摺って 徳吉洋二郎
- ③ 修司忌やキリンは黒き舌のばし 越野 雄治
- ④ ゴリラ客観す惜春のホモサピエンス 長濱 聰子
- ⑤ 生真面目な象のおしりや夏ささす 久野 康子
- ⑥ 森の人よ春の鴉は実に多弁 諸藤留美子
- ⑦ 晩春のすきまライオンの哲学 山口 明
- ⑧ 完黙を貫くハシビロコウ薄暑 高橋 健文
- ⑨ 春深し所帯じみたるキリンの尾 赤羽根めぐみ
- ⑩ 昭和の日戦を知らぬけものたち 吉野 精

(現代俳句千葉二二九号)より)

柏市俳句連盟 戸定が丘歴史公園吟行会

柏市俳句連盟は、五月二十七日(日)戸定が丘歴史公園において五十名の参加者を得て吟行会を開催した。

〔上位入賞者作品〕

(三句合点の代表句・十五位のうち十位まで)

- ① 蟻登る閉ぢたるままの不老門 齊藤 哲子
- ② ガラス戸に明治の歪み新樹光 藤岡 貞夫
- ③ 竹の秋ひと間ひと間に夢のあと 保坂 末子
- ④ 薄暑光廊下に残る雨のしみ 茶谷 静子
- ⑤ 竹林の風音を背に枇杷熟るる 日浦 静代
- ⑥ 新緑の眩しさのあり暗さあり 山村 自游
- ⑦ 梅の実や水戸へとつづく道に落つ 石山 幸月
- ⑧ 竹落葉見えぬ庭師の鉄み音 三上 繁夫
- ⑨ 昭武のレンズうつろふ四葩かな 奥井 あき
- ⑩ 夏めくや天へ気迫の楠大樹 名取美枝子

(柏市俳句連盟 鈴木一三記)

流山俳句協会「初夏の俳句会」

流山俳句協会(主催)は、五月二十七日(日)、流山市生涯学習センターにて、六十人(投句総数一八〇句)の参加者を得て、俳句会を開催。互選により左記の句が上位に選ばれた。(〇内順位)

- ① 母の歳越えて母知るカーネーション 天田美恵子
- ② 天花粉三男坊を裏返す 牧添 昌秋
- ③ 炎天を睨み不動の鬼瓦 平本 雅晴
- 一句最高点
- 天花粉三男坊を裏返す 牧添 昌秋

野口京子選(野田俳句連盟副会長)

(天) いつせいに鳴る風鈴のコンサート 土谷 純子

(地) 父の日といふ照れくさき親子酒 土谷 純子
(人) 昼顔や夜の顔あり敷の中 成田美津子
北川昭久選(流山俳句協会会長)

(天) スクランブル日を蹴散らして更衣 梓 孝江
(地) 山蟻のピカソ顔して振り向けり 佐々木幸子
(人) 白玉や言葉浮いたり沈んだり 篠塚 雅世

今年度は、新たに一句会が会員に加入したこともあり、例年に比べて多くの方のご参加をいただいた。今後とも俳句愛好者の輪をさらに広げて行きたいと念じています。
(小泉欣也記)

「音信」誌二十周年記念特集号発行

音信俳句会(会長、白鳥紅星子)の俳誌「音信」は、創刊二十周年を迎え、六月号を「二十周年記念特集」として発行した。慶祝。記念特集は、会長をはじめ十名による祝文、音信記念特集号作品、音信二十年の歩み等で紙面を飾った。

風鈴に星からの風とどきけり 白鳥紅星子 (音信) 六月号より)

「響焰」誌六〇〇号記念号発行

山崎聰主宰「響焰」は本年六月号で創刊六〇〇号を達成、本号を記念号とした。同誌は記念に三月、合同句集「響焰V」(真木一八五号に紹介済)を刊行。五月には主宰の第七句集『流沙』(別項に紹介)が刊行された。慶祝。これまでもこれからさきも春いろいろ 山崎 聰 (響焰) 六月号より)

結社賞

平成三十年度響焰最優秀作家賞

火炎賞 川嶋悦子

どくだみの花累々と戦場へ

白灯賞 波多野真代

夜のしじま青葉もくもく増えてくる

真代 (響焰) 四月号より

平成三十年度 雑草賞・新人賞

雑草賞 吉清和子

馬子唄や午後は翁の日向ぼこ

新人賞 原 正治・杉本克明・梅山明子

低気圧近づくと匂い栗の花

山人の交すあいさつ秋気澄む

来し方を母に重ねる萩の花

和子 正治 克明 明子 (雑草) 四月号より

会員著書紹介

●句集『流沙』

山崎 聰 著

『響焰』主宰の第七句集。和知喜八前主宰から平成十年に主宰を継承し、本年六十周年を迎えての記念の刊行。平成二十五年から五年間の作品三七六句を収載。昭和六年生れ、八千代市に在住。

『今生きている人間をふたりごころで詠う』を理念とする。七冊の句集の他、著書『自解一五〇句選』『季語のある風景』『統季語のある風景』

『喜八俳句覚え書』『シマフクロウによろしく』他。全景はほたるぶくろの中にこそ

総門をひづめ夏々日の盛り
夜半の秋昭和のおとことして座る

(平成30年5月発行・本阿弥書店)

●句集『高木一恵句集』

高木一恵 著

本句集は、既刊三句集より抄出の句と、句集『樞の舟』(平成十九年より三十年作)の三〇六句を併せ編年体で四五五句を収載。序句を金子兜太主宰、帯文を宇多喜代子氏が執筆。「中新田スウエーデン賞」「船橋市文学賞」「海程賞」その他数々の賞を受賞の実績を積む作家。現代俳句協合理事、千葉県現代俳句協会副会長として活躍中。船橋市在住。

下総のアダムの骨や月祭る
樞の木は舟に蓮は夢の座に

悼 金子兜太先生
定住漂泊おぼろ狐の尾の千切れ

(平成30年5月発行・角川文化振興財団)

受贈誌より

あびこ(三三六号)

寒晴や沼の真上に昼の月

いには(六月号)

初燕伊八の波に刃の気魄

浮巢(七月号)

わだつみへ吹く草笛の高鳴れる

沖(六月号) 麻衣結婚

嫁す吾子に華燭びらきの朴の花

音信(六月号)

大観の無我の掛軸風薫る

かずさホトトギス(五八八号) 松風(五八号)

泡ひとつ残して蝸蚪の沈みけり

響焰(七月号)

青葉潮生きているからざわざわと

草の実(六月号)

双肩に菖蒲をのせて浮世風呂

原人(六月号)

半鐘のあとからあとから蚊喰鳥

染谷 卓

村上喜代子

大木さつき

能村 研三

白鳥紅星子

三枝かずを

山崎 聰

逸見 真三

昼間たつお

ひろば

県内吟行地紹介

館山市城山公園

館山駅から南へ車で五分程で城山公園に着く。名前の通り標高六十六米の山頂に城があり、風光明媚で、はるか遠く富士山、近くは館山、北条の町並が一望できる。平地から山頂にかけては桜、ツツジの名所で古くから賑わっている。また、この地は江戸後期曲亭滝沢馬琴によって歴史小説九十八巻に書かれた所で、西側には海上自衛隊のヘリの基地があり、更には餌鱚の供給地として漁業と共に経済的に繁栄し、内房

と外房に跨り魚類の基地となっている。南に行くとも平砂浦という広い砂浜があり、明治後期の洋画家「青木繁」が「海の幸」を描いた処である。近くには古代安房南関東を神域とした安房神社がある。更にその山間に、通称小塚大師があり、正月と三月は門前市をなす。創建は弘法大師で、自ら仏像二体を刻み、一体は近くの布良浜から流し、それが川崎の大師に流れ着いたと伝えられている。この様に館山市は歴史的、文化的、産業経済の中心地として優れた観光地である。

(館山市俳句連盟会長 庄司風樹記)

誤	打つ	鉄に他の柔らかき春隣	藤井 元基
正	打つ	鉄に地の柔らかき春隣	藤井 元基
誤	訂正	一八五号三頁に誤りがありました。左記訂正しお詫び申し上げます。	
▼	訂正	一八五号三頁に誤りがありました。左記訂正しお詫び申し上げます。	
鴻 (六月号)	磯に焚く火のかうかうと放哉忌	増成 栗人	
好日 (七月号)	今もある兜太の目玉四月尽	長峰 竹芳	
雑草 (六月号)	ゆく春の招き猫にも薄埃	実粉 繁	
鴨 (六月号)	思ひきり雲を吐きつつ山笑ふ	高橋 道子	
軸 (六月号)	パン売りに来る驢馬がいて麦の秋	秋尾 敏	
新暦 (三三六号)	薄陽射し傘の翳負ふ白牡丹	中路 素童	
獺祭 (六月号)	蒨の葉の上ひろびろと風遊ぶ	本田 攝子	
夏日 (三三七号)	木洩日の回廊母の日の近し	望月 百代	
野火 (六月号)	春分や老化防止の四股踏んで	菅野 孝夫	
初蝶 (七月号)	薄つべらな大学のビル走り梅雨	中山 和子	
半島 (七月号)	五月關太平洋より地震来るか	武田 和郎	
万象 (六月号)	古文書の祝儀の次第松の花	内海 良太	
ペガサス (刊号)	雪の夜の列車わたしを通過する	羽村美和子	
百鳥 (六月号)	昭和の日昭和を知らぬ子ら遊ぶ	大串 章	
遊牧 (一一五号)	後ろ手は日暮の慣い木々芽吹く	塩野谷 仁	
ろんど (六月号)	花過ぎを遊ぶもまぎれなき吉野	すぎき 巴里	

第4回 千葉県俳句大賞

- 【応募条件】 千葉県内に在住し、平成29年12月1日～平成30年11月30日までに刊行した句集より審査します。当協会に加盟されているか否かは問いません。現在当協会の役員をされている方は応募できません。
- 【応募方法】 自薦、他薦は問いません。千葉県俳句作家協会担当者まで句集と自選20句、A4版の紙1枚を使用（自薦・他薦にかかわらず）を添えてお送りください。
- 【応募締切】 平成30年11月末日（必着）
- 【賞】 大賞には賞状、記念品、賞金5万円
- 【応募先】 〒271-0092 松戸市松戸 2274-5
千葉県俳句作家協会顕彰部「千葉県俳句大賞」担当 佐藤 映二 宛
※ 封筒の表に「千葉県俳句大賞応募」と朱書きしてください。
- 【選考委員】 能村研三 増成栗人 三枝かずを 塩野谷仁 秋尾 敏 村上喜代子
- 【表彰】 平成31年2月11日（祝日）新春交流俳句会の席上にて表彰します。

第33回協会賞の作品募集

- 募集句数 20句 新作未発表の作品で「題名」を付す（投句作品の訂正はお受けできません）
- 審査料 3,000円 応募作品に郵便小為替同封のこと
- 締切 平成30年12月15日（土）必着
- 審査員 秋尾 敏 川合 憲子 三枝かずを 塩野谷 仁 染谷 卓
田所 節子 能村 研三 増成 栗人 村上喜代子
- 賞金 3万円
- 投句先 〒265-0077 千葉市若葉区御成台3-26-6 石橋みちこ方
千葉県俳句作家協会顕彰部協会賞係
※ 封筒表に「協会賞応募」と朱書きしてください。
- 投句用紙 ◇ B4版 400字詰め原稿用紙1枚を使用。
◇ 右欄外に「題名」、末尾欄外に郵便番号、住所、姓号、電話番号、所属、俳優、年齢を楷書で明記。
◇ 右上欄外に「新仮名遣い使用」或いは「旧仮名遣い使用」と明記。
◇ 会報「真木」185号「協会賞選考過程」を参照。

第60回 千葉県俳句大会作品募集 締切迫る!!

○ 特別選者・片山由美子氏の講演があります

1. 一般の部

募集作品 雑詠 2句1組 (投句作品は、自作で未発表のものに限ります。
投句は何組でも可で、組単位に採点、授賞致します)

応募資格 千葉県内を俳句の活動拠点とされている方。

締切 平成30年7月20日(金)(当日消印有効)

出句料 一組 1,000円 投稿に添付 (なるべく定額小為替でお願いします)

送付先 〒263-0024 千葉市稲毛区穴川2-2-12 平岡育也方
千葉県俳句大会・一般の部事務局 (電話 043-251-7284)

特別選者(記念講演あり) 片山由美子(俳誌「狩」副主宰・俳人協会常任理事)

2. ジュニアの部

募集作品 雑詠 1句 (投句作品は、自作で未発表のものに限ります)

応募資格 千葉県の小・中学校に在籍の児童・生徒

締切 平成30年7月31日(火)(当日消印有効)

出句料 無料

送付先 〒270-0157 流山市平和台2-10-14 小野正之方
千葉県俳句大会・ジュニアの部事務局 (電話 04-7159-5503)

夏季吟行会のご案内

日時 平成30年8月30日(木)雨天決行

吟行地 流山市街(流山本町)

一茶双樹記念館、赤城神社、江戸川、本町界隈、常与寺・富士塚、
近藤勇陣屋跡、流山博物館

句会場 流山商工会議所3階ホール(流山駅徒歩4分)
(流山市流山2丁目312 ☎ 04-7158-6111)

交通 千葉市方面より西船橋乗換武蔵野線「新松戸」及び千代田線「新松戸」乗換
流山電鉄「幸谷」から「平和台」または「流山」(終点)下車

受付 句会場にて午前11:30より(吟行を済ませてお集まりください)

投句 囁目2句 ※12:30締切(時間厳守)

会費 1,000円(昼食は各自でお取りください)

表彰 15位まで 解散予定 16:30

参加申込 平成30年8月20日まで

申込み先 〒270-0135 流山市野々下5-881-5 北川 昭久方
千葉県俳句作家協会吟行会係 宛 ☎ 04-7143-0231

新入会員一句

そして今飯館村の蟬しぐれ
 金子まもる
 朧夜や付度の世の薄明かり
 田村 雅子
 一陣の風の礫や礫の実
 藤田 考成
 カンパネルラは螢袋と今朝知れり
 山本とう子
 七十路も八十路も凜と菜花風
 出川 雅子

基金御礼 (六月十五日現在)

増成 栗人	前北かおる	菅谷たけし
荒木 甫	平岡 育也	松本よし彦
塩野谷 仁	北川 昭久	谷本 元子
高橋 健文	能村 研三	三枝かずを
染谷 卓	望月 百代	石井紀美子
村上喜代子	川崎 直子	佐藤 映二
川合 憲子	加藤 峰子	荒木 洋子
中村 世都	田所 節子	細根 菜
藤岡 貞夫	楠原 幹子	小野 正之
倉岡 けい	高木 一恵	川俣婦美子
袴田 菊子	小林 実	鈴木 秀子
金子日出子	秋尾 敏	すずき巴里

(以上 一五六口、三二万二千元)

*本号に、千葉県俳句作家協会運営基金の払込取扱票、個人別年会費納入状況、会員名簿、協会賞・俳句大賞募集、県俳句大会、夏季吟行会のご案内を同封致しましたので、ご確認ください。

千葉県俳句作家協会運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、今年度より運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元
 ◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口
 郵便振替 〇〇一四〇一〇七九二〇八三
 会報「真木」に、基金にご協力頂いた方のご芳名を記し、領収に替えさせて頂きます。

会費納入のお願い

本号に、個人別年会費納入状況を同封しました。年会費は二五〇〇円です。三十年度までの年会費未納の方は、協会の円滑な運営のため、お早めの納入をお願い致します。

郵便振替の口座番号は次のとおりです。
 振替口座 〇〇一五〇一六一三五二三四四

広告募集のお知らせ

「真木」掲載の広告を募集します。
 お申込みお問合せは左記へお願い致します。

〒二八九一二四四
 匝瑳市八日市場 イー二三六七一四
 千葉県俳句作家協会・広報部 菅谷たけし 宛
 電話 〇四七九一七二一〇八六七

事務局日誌

◆第一回理事会 (出席者二十四名)
 日時 4月21日(土) 14時から16時
 会場 千葉市「ホテルブラザ菜の花」
 議事
 1 幹部会報告
 2 総会資料について
 3 新緑交流会について
 4 第32回協会賞贈賞式について
 5 第60回千葉県俳句大会について
 6 平成30年度吟行会について
 7 会報「真木」一八六号について
 8 その他、事務局報告

◆第二回理事会 (出席者二十三名)
 日時 6月16日(土) 14時から16時
 会場 千葉市「ホテルブラザ菜の花」
 議事
 1 第32回協会賞贈賞式報告と反省
 2 ①平成30年度通常総会報告と反省
 ②新緑交流会・懇親会の報告と反省
 3 第60回千葉県俳句大会について
 4 平成30年度吟行会について
 5 第4回千葉県俳句大賞及び
 第33回協会賞の募集について
 6 会報「真木」一八六・一八七号について
 7 基金について
 8 その他、事務局報告

会員異動

新会員
 金子まもる (八街市) 田村 雅子 (千葉市)
 藤田 考成 (山武郡) 山本とう子 (千葉市)
 出川 雅子 (千葉市)

編集後記

県俳句大会の締切日は、一般の部は昨年より早く七月二十日です。皆様方のご応募をお待ちしております。是非、お知り合いにお声を！ (紀)

◆誌代/年間 二一、〇〇〇円

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二丁目一六谷口方
電話 〇四七三三六三四五〇八
FAX 〇四七三三六六一五一一〇

「鴻」俳句会



心を満たす俳句

主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

創刊 昭和23年

原人

伝統俳句に現代の詩情を

名譽主宰 三枝 青雲
主宰 昼間たつお

誌代 一年 二二、〇〇〇円
発行所 原人社

〒260-0824 千葉市中央区浜野町四〇七十六
TEL・FAX 〇四三二二六五四三三三
振替口座番号 〇〇一七〇一四一六四八五九七

人間の総量を

鳴

創刊 田中午次郎
再刊 伊藤白潮
選者 高橋道子

誌代 一ヶ月 一、〇〇〇円(送料共)
一年 一二、〇〇〇円

〒277-0827 柏市松葉町四一七二一三〇五
荒木甫方 鳴 発行所

電話 〇四一七一三三三三三三三三三
振替 〇〇一八〇一四一六一五七二二
http://shigi-haikukai.com/

月刊俳誌

沖

俳句ルネッサンス

主 宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖 発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊 50周年

軸

軸 俳句会

主 宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
82円切手3枚で見本誌贈呈

創刊二十五周年

俳句文芸の真・新・深を志す

ろんど

創刊 鳥居おさむ
主 宰 すずき巴里

誌代 一年 一二〇〇〇円

〒262-0042 千葉市花見川区花島町四三二一〇
ろんど 発行所

電話・FAX 〇四三二二五八〇一一一
本部〒167-0023 東京都杉並区上井草一〇二八二
振替 〇〇一五〇一九七〇二二〇七

俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四一七七一八二一四四四一

郵振替 〇〇一〇〇一四一八八九〇七四

あびこ俳句同好会

主 宰 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ

いには

INBA

主 宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

— いには俳句会 —

〒276-0036 千葉県八千代市高津 390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌 師系 金子兜太

遊 牧

代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七一一二二二〇七
遊牧俳句会

電話 〇四七三三三六一〇八一
FAX 〇四七三三一五七七三八